

目的 海藻は昔から日本人に親しまれ海産食糧資源として重要であった。海藻をよく食する特定の地域の人々の寿命が長いことが統計的に明らかにされ、から海藻に含まれる各成分の含有量が測定され、特に無機成分については種類が多く又含量が非常に多いことからミネラル供給源として価値が高く評価され多くの研究がなされている。しかし無機成分の部位別や生育段階別生育環境別による定量値はあまり見られない。実際の食材料としては各生育段階のものが利用されており又現在は利用度の低い部位も今後は食材料として利用度が高まることが考えられる。このようなことから今回はその無機成分のうち Ca, P, I の生育段階別部位別生育環境別の含有量を測定したので報告する。

方法 Ca: 亜マニガン酸容量法, P: バナドモリブデン酸試薬による比色法,
I: Larsen の方法によって測定した。

結果 生育段階別の粗灰分と Ca は幼葉期に無水換算値が一番多く含まれ成熱老成するに従う次第に減った。P は幼葉期から成熱期にかけて多く含まれ老成するに従う急激に減少した。I は幼葉期は少しが成熱期に多く含まれその後あまり変化はない。部位別では粗灰分は中肋と仮根に多く、Ca 及び P は葉部に多く、I は葉部及び成実葉部に多く含まれていた。生育環境別では養殖の条件が良好であるた爲か密植との差はあまり見られなかった。